

「研究のまとめ」

# 1. 本年度の研究について

- ☆各学部でテーマをもった取組。
- ☆子供の成長及び研究の成果が分かる目標を具体的に設定。
- ☆学部間、学級間の取組を共有することを重視。
- ☆授業研究会の実施。助言を受ける機会。

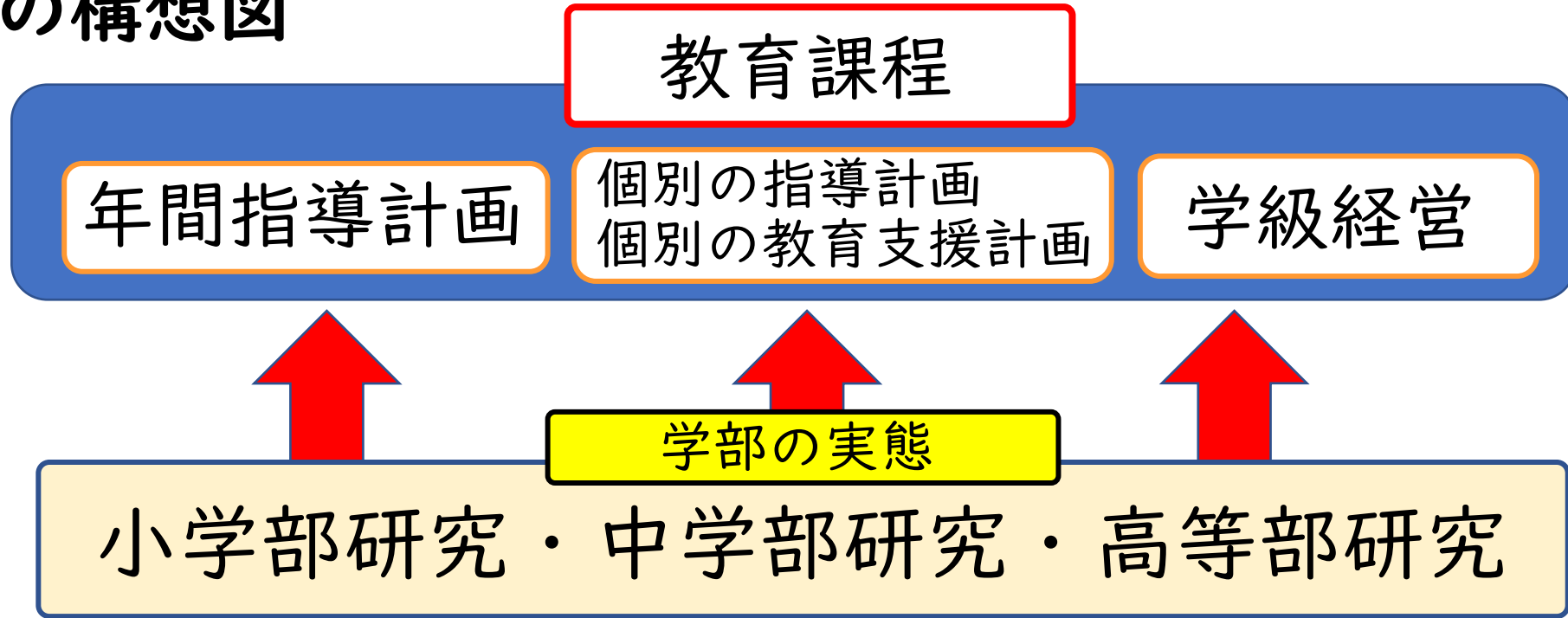
## 【共通キーワード】

各教科等を合わせた指導

各教科の見方・考え方

各教科、自立活動、将来の姿、家庭生活

# 研究の構想図



とりあえず  
1年

## 各種取組

校内研修（実践の共有）  
外部講師招聘研修  
学びの履歴シートの検討

## 学部研究共通キーワード

各教科等を合わせた指導

各教科の見方・考え方

各教科、自立活動、将来の姿、家庭生活

## 令和5年度研究テーマ

各学部のニーズに着目し、各教科及び自立活動、家庭生活との関連付けの整理及び活動の充実を目指した実践的研究

### 小学部研究

「日常場面の活用」に着目し、各教科及び自立活動、家庭生活（保護者との連携）との関連付けを整理しながら、活動の充実を図る。

### 中学部研究

「生活単元学習」に着目し、各教科及び自立活動、家庭生活（保護者との連携）との関連付けを整理しながら、活動の充実を図る。

### 高等部研究

「作業学習」「現場実習」に着目し、各教科及び自立活動、家庭生活（保護者との連携）との関連付けを整理しながら、活動の充実を図る。

# 小学部の進め方

【現状】 学部の課題は？（昨年度末アンケートより）

- ・他学級の学級経営が知りたい。
- ・他学級の個別の学習を見る機会が欲しい。
- ・自分の学級の教材に悩んでいる。

共有の場を設定

- ・授業によっては、やりっぱなしになって、活用に結びついていない。
- ・家族（家庭）が成長に気付いていない。

活用の場まで見据えた実践

【内容】 何に着目する？

教材・支援方法の共有及び検討

目指したい姿（活用する場面）を明確にした目標設定

【ゴールイメージ】

教師一人一人の実践力の向上

学んだことを生活に生かすことができる場面設定

目指す児童像を育てることができる  
年間計画の見直し及び教育課程の検討

【方法】 どのようにする？

目指したい姿を設定

その姿をどの場面で見えるか。

どの活動で育てるか。

その取組で良いか。

どうなったか。  
その後、どうするか。

改善

共有・検討

# 中学部の進め方

## 【現状】学部の課題は？

- ・教科学習での学びを生活で生かせていない
- ・生活単元学習の授業づくり(目標設定や評価方法等)が難しい
- ・教科と生単を組み合わせた単元構成とした年間指導計画の検証が必要

生活単元学習に着目

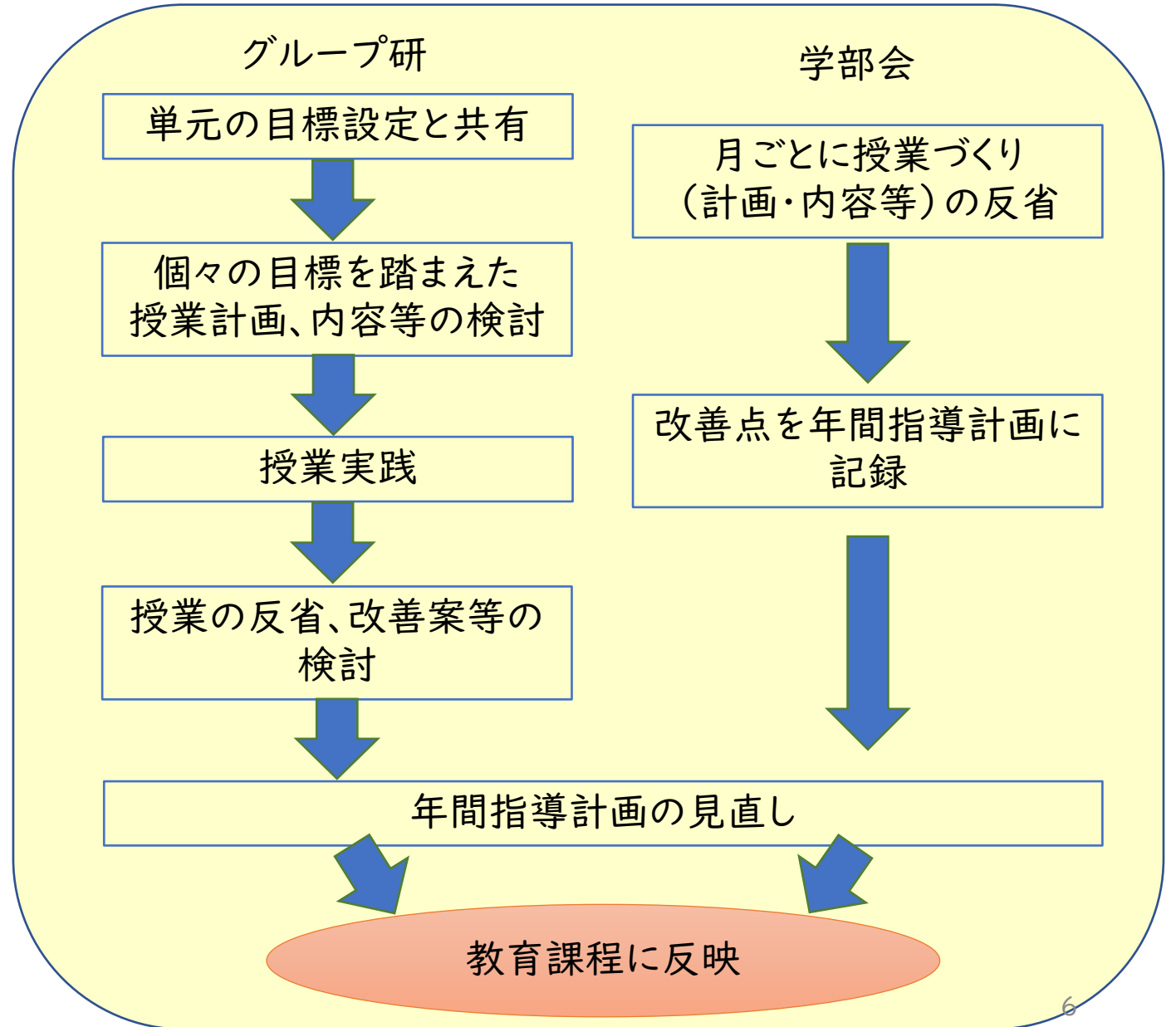
## 【内容】何に着目する？

- ・生活単元学習の授業づくり(計画、実践、改善案)の検討
- ・学習したことを生活で生かす場の設定

## 【ゴールイメージ】

- ・年間指導計画、教育課程の改善
- ・教師の実践力の向上

## 【方法】どのようにする？



# 高等部の進め方

【現状】 学部の課題は？

作業学習の中での働く力の実現

力（教科等）と姿（生活像）の乖離

本人・保護者・教師間の卒業後の姿のズレ

進路に応じていない作業内容

【内容】 何に着目する？

卒業後に必要な力の分析

卒業後に必要な力の情報を共有するシステムの考案

【ゴールイメージ】 学部や個々の実践がどのようになっていたい？

卒業後の主体的な生き方の実現

作業学習による必要な力の実現

卒業後に必要な力の情報共有

教育課程による生活像の達成

【方法】 どのようにする？

## 【卒業後の姿に向かう学習活動】

卒業後の姿→必要な力→教科等の資質・能力→指導形態（作業学習）→学習方法→教材・教具をつなげる

本人を含めた関係者間で、卒業後のイメージを有効に形成し、必要な力を学校・保護者・地域が共有する

1st

卒業後の姿から、必要な力についての大枠の認識を学部で定める。作業班会（仮※期日等未定）を通して、「必要な力」を向上させる取組などについてまとめた実践レポートを作り、職員間で情報を共有する（販売会を区切りに年2回）。

2nd

各班のレポートを参考にし合いながら、視野を拓げることで、将来像の実現に向けた最適な教育課程の編成につなげる。卒業後に必要な力を多面的に整理し、進路指導や関係者間の情報共有に活用する。

## 2. 成果

### ①小学部

- ・学部研にて「共有の場」を設定。
- ・悩みを相談できるようになったことによる教師の負担軽減。
- ・「目指したい姿」を設定したことによる活用の場まで見据えた実践。
- ・年間指導計画の見直し及び修正。
- ・日常生活の指導と教科等の関連を意識しながらの教育課程の検討。



## ② 中学部

- ・生活単元学習等のグループ学習における個人目標の設定。
- ・目標の立て方についての共通理解。
- ・「**単元終了時の姿**」を設定することで、授業の狙いの明確化。
- ・他教科との関連の見直し。
- ・生活単元学習や各教科における単元化の工夫。
- ・年間指導計画及び教育課程の見直し、検討。

### ③ 高等部

- ・学校での学習と卒業後の生活の結びつき。
- ・評価方法及び教材の工夫。
- ・年間計画、作業班、教科における目標の一貫性。
- ・作業班ごとに集まり、共通理解を行う機会を設定。
- ・課題意識の共有。

## ④全体

- ・各学部の実態・課題に即した実践。  
→学部ごとのテーマ設定により、**各学部の課題**を焦点化。
- ・「**共有の場**」を設定したことによる職員間の共通理解。  
→学部研としての月1回の共有の場の設定。
- ・「**将来の姿**」を意識した目標設定及び実践。  
→外部講師招聘による研修の実施。  
→各学部で合わせた指導の在り方について検討、共通理解。
- ・年間計画、教育課程の見直し及び修正。
- ・各教科との関連の見直し。  
→教務部による**単元配列表**の作成。



# 3. 課題

## ①小学部

- ・職員間での情報共有
- ・家庭との連携

## ②中学部

- ・家庭との連携

## ③高等部

- ・家庭との連携
- ・職員間での情報共有
- ・共通の評価規準の設定

## 家庭との連携

- ・学校での様子が保護者に伝わりにくい。
- ・家庭での成果が見えにくい。
- ・支援方法の共通理解が難しい。

- ・連絡帳等、伝え方の検討。
- ・一人一台端末の活用。